

派遣報告書(報告者:樋口俊司)

大会名	第56回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会
開催地	熊本県菊陽町、合志市
日時	令和8年2月 14 日(土)～ 15 日(日)
担当ゲーム1	興南(沖縄県) vs 延岡学園(宮崎県)
クルー	CC:樋口俊司(大分県) U1: 野田宏樹(熊本県) U2: 石谷祐貴(鹿児島県)
担当ゲーム2	宮崎工業(宮崎県) vs 沖縄水産(沖縄県)
クルー	CC: 樋口俊司(大分県) U1: 中屋敷大(大分県) U2:中村光希(熊本県)
担当ゲーム3	精華女子(福岡県) vs 慶誠(熊本県)
クルー	CC: 比嘉涼太(沖縄県) U1: 峰聰(長崎県) U2: 樋口俊司(大分県)
(担当ゲーム)Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none">・両チームのスкауティング情報共有(とくに注目すべきマッチアップ、ラフプレーヤー)・役割の確認(EOQ,EOG)・Rotation・Edgeのprimary	
(担当ゲーム)Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none">・第1試合については、気心知れたクルーでもあったので、初戦という固さを感じることなく、PGCから積極的な声の掛け合いやゲーム中の気づきを出せていった・第2試合については、難しいゲーム展開の中で「ペイント内をクリーンにする」という一つの基準をクルーとして確立できなかった。PGCの段階で準備不足が否めなかったなという反省を持った。・第3試合については、前日の失敗を踏まえて、ペイントエリアに関する判定や情報共有などCCMを発揮しゲームをリードすることができた。ただし、Cを孤立させるシーンがあり、Rotationに関してボールウォッチャーになることやノッキングしてしまう原因を追求する必要があるなと反省しています。	
今大会に参加しての感想など	
<p>U18春季九州大会が今回のような運営で行うことが最後となることもあり、次回の運営も見ながら本県がホストになった際にはどのような運営ができるかを考えていく必要があると感じつつ、阿蘇山からの寒い風を感じながら、前週との気候の違いも体調管理を課題とし過ごしたいと思った大会でした。</p> <p>大会を通じて感じたのは、外国籍選手が各県に当たり前にいたり、日本人選手の大型化や技術の高さに参加するたび驚くばかりです。特に本県柳ヶ浦が決勝に進出したり、沖縄県のチームのレベルの高さは目を見張るものでした。大会に臨むにあたり、いろんな情報を収集し臨んでいかないと、審判一つでゲームが違う方向に行く危機感を持ったところです。</p> <p>私自身の課題である、「ゲームフロー」や選手、チームの意図を感じながら判定をゲームにフィットさせる力を養いたいと思ってチャレンジした大会でした。「ルールでゲームをリードしていく」「どのようなゲームを作っていくために準備をしていくのか」より普段から取り組んでまいりたいと思いました。この度の派遣に当たり、家族、職場、大分県協会や審判委員会の皆様、更にはホスト県である沖縄県の皆様に感謝もうしあげまして、報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>	